5/15(mon)
@Souzoukan

第四回 みんなで伊那新校の学習空間を考えよう

Thinking&Talking about New High-School!

4

↑ これまでの３回のワークショップによる付箋全てを壁面に掲示

●参加者
上伊那地域にお住まいのみなさん
＋ 設計 JV チーム　　合計約 50 名

5/15（月）【第四回 伊那新校ワークショップ】
18:00-20:00　伊那市創造館 3F 講堂

前半のインプットでは、これまで 3 回のワークを振り返り、全て参加されていない方もいるため、各ワークでの手法や出された意見などをまとめた資料を配布し、共有した上で、いくつかのキーワードや概念を整理した。

特に「グラデーションとバリエーション」を軸に展開されていく地域の関わり方は、後半のワークにとどまらず、今後のあり方の可能性を示唆している。

最終回ということもあり、40 名を超える方に参加いただいた。

↑ 9 つのテーマごとに、アイデアを集約させていくワークを行った

↑ 多様な参加者の顔ぶれも、グラデーションとバリエーション

●目的・趣旨

過去 3 回のワークは意見・アイデアの「発散」という位置付けであり、今回の 4 回目は考え方や具体的へと「集約」し、ビジョンや方向性を共有することにある。 もちろん、今回で集まりが終わるのではなく、ここからがスタートという意識付けと共有こそが、集まりの意義でもある。

●NSD の考える共学共創のビジョンの共有
●ワークショップによるアイデア集約のプロセス体験
●地域と新校との接点、個人の関わり方の可能性についての意識付けの共有。「どのような方法で」「どんな関わり方で」という具体性を導き出す。

↑ 高校生や小学生の意見やアイデアは、より具体的で創造的

第四回 みんなで伊那新校の学習空間を考えよう

Thinking&Talking about New High-School!

4

●当日のフロー（前半〜インプット）

1. 県教委 田中 T より NSD プロジェクトの説明

・これまでとは異なるプロセスである点
・学びと空間をともに「考えていく」共学共創ビジョン

2. インプット

JV瀧内より「これまでの集まり」の振り返り

・瀧内の説明（下図参照）を、井崎が補足
・これまでの全体の流れの振り返り
・各回のテーマと、付箋のまとめのポイントを提示
・共有されていく「地域の願い」と、
NSD のビジョン「学校づくり･人づくり･地域づくり」と重ね合わせることの意義

JV須永より「学習空間の事例」の動画説明

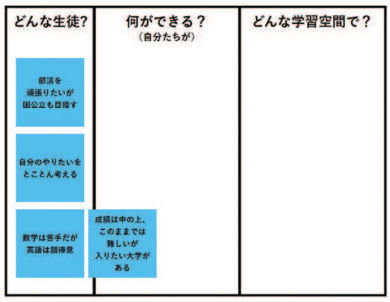
・フレキシブルラーニングエリア（FLA）などでの具体的事例から、「地域の関わり」をイメージしてみる

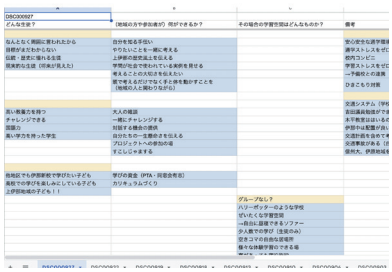
↑これまでのワークショップや集まりを「報告書」にまとめて配布

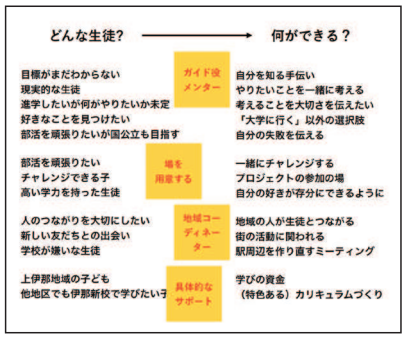
↑ 四回目を合わせて、延べ 150 人を超える地域の方々に参加いただいた

●これまでのワークショップのフィードバック

●第一回「伊那新校の役割ってなんだろう」・・どんな生徒が通うのか？を起点に考えてみる

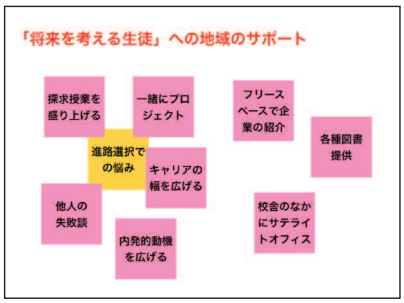


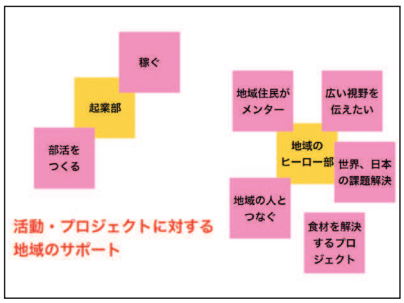


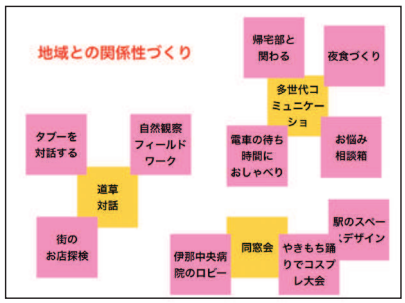


↑ 具体的な生徒像を起点にすることで、場面や学習空間の具体的イメージを付箋で書き出した。
提供できること、の重なりをまとめる中で、具体的な「こんな動きをする人」という人物像が見えてくる

●第二回「新しい学校で過ごす１日をイメージしよう」・・個別最適な学びや、誰一人取り残されない学びって？

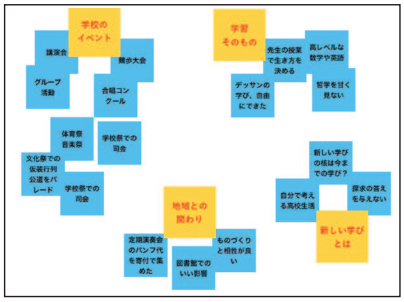






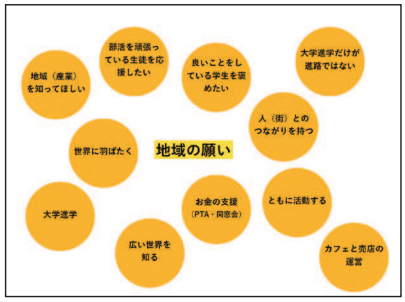
↑「登校時、昼休み、部活動、下校時、電車の待ち時間、進路の悩み・・」など、一日の学校生活のそれぞれの場面で何が提供できるのか。
を考えることで、付箋をまとめたものには、結果的に「関係性」が可視化されていく。

●第三回「高校での「心ふるえる瞬間」は？」・・既存の学びや学習空間で残していくことを共有しよう



「地域の願い」
と
「関わり方のデザイン」

↑既存の出来事や、個人の体験から抽出された
「変わらない価値のあること」=「地域の願い」



第四回 みんなで伊那新校の学習空間を考えよう

Thinking&Talking about New High-School!

4

●当日のフロー（後半～ワーク）

3. ワークショップの説明

・本日の WS の位置付けと、目的の説明

テーマ

「地域から「学びを支える」部活動つくりませんか？」

バリエーションとは、「学びを支える活動」

学校と地域の橋渡し（コーディネート窓口）
アントレプレナーシップ教育
まちの居場所づくり
お金の支援
・
・

＼２回目のWSでも総評で触れましたが／

関わり方のデザイン

「バリエーション」
と
「グラデーション」

グラデーションとは、
学びを支える活動への「関わりかた」

運営主体
運営参加
活動主体
活動参加
見守り（応援）

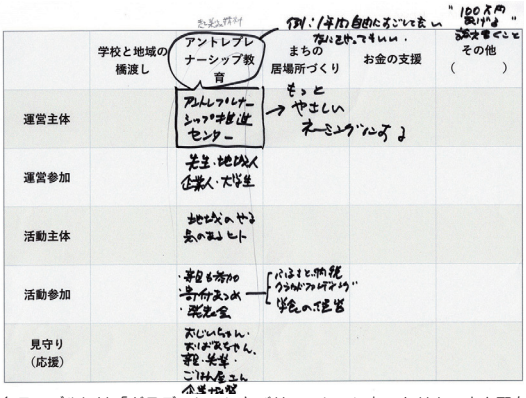
これまで共有してきた「地域の願い」を、「関わり方をデザイン」することで、具現化していく。そのために「実際の関わり方」について９つのテーマ（テーブル）に別れ、話し合った。

もっといろんな話をしたい	部活動の仕組みづくり	橋渡し
アントレプレナーシップ教育	まちの居場所	お金の支援
地域と関わる学習空間	保護者	高校生プロジェクト

アイデア出し・集約に向けたのルール

・「何をしたいか」や「どんな機能があればいい」という意見から、「どのような」仕組みが必要か、「どのように」なら関われるか、という「どうやって」を軸に考えをまとめていくことをテーブルファシリテーターが担った。

↑９つのテーマで「自分が」関心のある、関われそうなテーブルへと移動



↑ 各テーブルには「グラデーションとバリエーション」マトリクス表を配布

↑「仕組みづくりそのもの」という抽象度の高いテーマを話すテーブルも

↑「具体的」なテーマにつき、話の密度も熱く・濃くなっていきます。

↑ 現役高校生は今回３人が参加。

第四回 みんなで伊那新校の学習空間を考えよう

Thinking&Talking about New High-School!

4

●全体共有（抜粋）

9つのテーブルから、具体的に話されたことを「二つ」発表していただいた。

高校生プロジェクト　●グループを作って、早々にクラスマッチ（両校の対抗戦・交流戦）を企画する　●地域の人の「研究」を知りたい、一からではなく共同参画していく（先生の役割が軽くなる）

橋渡し　●「地域 × 先生」の関係性には可能性がある。先生の保健室（みんなの）、自ら休めるような時間の確保。

アントレプレナー教育　●「子どものやりたい」を保護者や大人が受け止められるようなサポート　●希望する人に「100万円あげる」ただし、論文を提出。

まちの居場所　●自律的な運営とスペース確保のための（大人な）根回しが必要　●「手を貸してくる大人一覧」を可視化して生徒に配布

お金の支援　●お金を出すから口も出す、ような「見返り」を手放す　●企業の支援による、ロゴなどが入った制服やシャツなどのリース

保護者　●地域にいる大人、移住者＝保護者？なかなか繋がれない保護者も共に学び、アップデートする。

部活動の仕組みづくり　●キャリア教育コーディネーターの位置付け　●（接点となる）ゆるいコミュニティスペースや地域との関係性を作る

地域と関わる学習空間　●林業・農業など「達人」に気軽に触れたり、季節の行事から学ぶ　●伊那谷の暮らしがそのまま教室

↑顔の見える関係として、この集まりには無数の「キーマン候補」が参加

↑ 斬新なアイデアは「ワクワクしたい。」という素直な動機から生まれる

↑異年齢が交流する「対話の場」場こそ重要で、学びの可能性に繋がっていく。

●総評・まとめ（ファシリテーターから）

今回はこれまでのどんどんアイデアや意見を出して発散していくワークとは異なり、意見をまとめていく集約するワークだったこともあり、難しさを感じていた方も多くいたのではないかと思います。そんななかでも、いくつかの具体的な「部活動」を作っていく動きが考えられたのではないかと思いますし、その「兆し」は全てのグループで見られたワークとなったかと思います。

今後は基本計画から基本設計へと段階が進みますが、引き続き、地域の皆さんの関わり方のデザインについて話していける場を設定できればと思っています。

最後の各グループごとの発表の時間、小学生の意見をみんなで聞く時間帯がありました。ここに「伊那らしい寛容性」と「子どもたちの探究を支える地域の姿」が集約されていたように感じています。こんな風景が街のさまざまな場所に現れていく未来の一端が見えた瞬間でした。